

保護者の
みなさん

一緒に考えてみませんか

家庭(保護者)と学校、幼稚園、保育園が
一丸となって子育てをするために

花巻の子どもたちは、勉強だけでなく、スポーツ活動、郷土芸能活動、ボランティア活動などに一生懸命取り組み、頑張っています。さまざまな面で大きな成果を上げています。

このような子どもたちの頑張りをしっかり支えること、「学校が楽しい」と思って生活できる子を増やすことが、私たち大人に求められています。

そのためには、家庭と学校、幼稚園、保育園が連携し、強いネットワークづくりをすすめることが何よりも重要です。

子どもたちのためにどうすることが一番いいのか、具体的な事例を通してみんなで考えてみましょう。

就学前教育推進事業

事例集 NO. 1

平成21年9月1日(火) 花巻市教育委員会



学校生活から…

例

1 先生に電話する前に…

ある日の朝、A子は隣の席のB男がきれいな色ペンを持っていることに気がつきました。そして、どうしても欲しくなりました。

その日の休み時間に、A子はB男の机の中から色ペンを取り、自分の机の中に入れました。

休み時間が終わり、B男は色ペンがないことに気がつきました。探しているうちに、A子の机の中に自分のペンを見つけました。

「俺のペンだぞ。返せ！」

B男は怒って、A子の頭を叩いてしまいました。

夕方、A子の母親が担任に電話をしました。

「うちの子が、B男に叩かれました。席を替えてください。」

A子は、色ペンのことを言えなくなりました。



例

2 なんのための参観日?

今日は学校の参観日です。C男は、朝からお母さんが学校に来るのを楽しみにしていました。参観授業は5時間目の算数です。C男は、お母さんにいいところを見せようと、昨日の一人勉強は算数をやりました。

そろそろ5時間目が始まります。お父さん方やお母さん方が、教室に入り始めました。

算数の問題が出された頃、C男はお母さんが廊下にいるのを見つけました。でも、お母さんは友達と何か話をしています。

「答えは、いくらになりますか？」

C男は、元気よく手をあげ、指名されました。

「はい。30円です。」

でも、お母さんはまだ話に夢中になっています。



例

3 先生批判→学級崩壊

「静かにしなさい。」

D先生は、今年初めて教員になりました。3年生の担任になり、張り切って仕事をしてきました。休み時間も、児童と一緒に遊んできました。

しかし、二学期が始まると、大声で注意することが多くなりました。授業もうまく進まなくなり、立ち歩く児童も出てきました。

「E君、座りなさい。何回言ったら分かるの。」

E君は全く聞く気がありません。

「先生。家のお母さん、先生のこと、若くて頼りないって言ってたよ。」

「私のお父さんも、そう言ってた。」

児童が勝手に先生のことを言い始めました。とても授業どころではなくなりました。

この学級は、3学期に学級崩壊となりました。

